

グループホームゆうとぴ庵摂津・千里丘

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 3月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773700469		
法人名	株式会社ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとぴ庵摂津・千里丘		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	摂津市千里丘東1-13-7		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆうとぴ庵摂津・千里丘では地域との関わりを大切にしており自治会に加入しております。自治会で行われる夏祭りや運動会などのイベントに積極的に参加し、また地域の防災訓練などへも参加して地域の一員としての活動を行っております。他にもご近所の皆様と花火大会を開催し地域交流を図ったり他事業所や社会福祉協議会と協力して地域との交流イベントを開催するなど活発な活動を行っております。施設内でもボランティアの方々に参加していただき様々なレクリエーションを展開して主に季節を感じていただける行事を企画運営させていただいております。今後も地域に開かれたアットホームなグループホームを目指して取り組んでいきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

駅からも近く、散歩・買い物・通院に便利な住宅地に立地したグループホームである。自治会に加入し、地域行事や防災訓練に参加し、地域の方からの声かけで花火大会を開催したり、日常的にボランティアの来訪がある等、地域交流を継続し深めている。摂津市と連携して「認知症プロジェクト」に参加する等、事業所の機能を活かした地域貢献にも積極的に取り組んでいる。日常的な外出と共に、季節ごとの地域行事、また、少し遠出の外出も行事として計画的に行い、年間を通して戸外で過ごす時間が多く持てるように取り組んでいる。全員参加の研修の実施や、定期的な会議・委員会活動等により、職員の資質向上と連携に努め、職員の定着もよい。職員の意見を集約してモニタリングを行い、現状に即した個別性のある介護計画の下にサービス提供が行われ、書類・記録も整備されている。同一建物内のクリニックとの連携を密にし、医療面での家族の安心となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念のもと各フロアに理念を掲示して意識を持つようにしています。	「より良い介護」「感動ある介護」という法人の理念を基に、8項目の基本方針を掲げている。基本方針は、職員の行動規範となる具体的な内容で、「私たちは、地域との連携に努め、地域に根差したグループホームを目指します。」という地域密着型サービスとしての意義が盛り込まれている。理念と基本方針を玄関と各フロアに掲示し、職員が常に目にして意識づけができるようにしている。年間研修計画に「理念の理解について」の研修を2回盛り込み、全職員が受講できるように複数回実施して理念の浸透に努めている。職員の定着もよく理念の浸透は図られており、ミーティングや申し送りの機会には、理念に基づいたサービスの提供や支援が行えているか話し合い、理念の実践に取り組んでいる。	

2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域とのつながりが持てるよう交流をしています。	自治会に加入し、夏祭りや運動会などの地域行事や、防災訓練に参加している。日常的に散歩や買い物で地域に出かけ、地域の方とあいさつや言葉を交わしている。地域の方からの声かけで花火大会を開催し、近隣の方と交流を行った。ボランティアの来訪があり、歌や演奏を鑑賞したり、食事作りやおやつ作りを一緒に楽しむ等、交流の機会を持っている。摂津市と連携して「認知症プロジェクト」に参加し、福祉講座や認知サポーター研修等の開催場所の提供や講師派遣を行い、事業所の機能を活かして地域貢献に取り組んでいる。「なつかしカフェ」の開催や参加も行っている。また、「認知症カフェ」開催の計画も進んでいる。AEDを設置し、近隣の方の緊急時に役立つ事例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方との関わりが持てるなつかしカフェなどのイベントを開催しています。		

4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を踏まえてサービス向上に役立てています。	利用者・家族代表者・高齢介護課係長・地域包括支援センター職員・自治会長が出席して年6回開催している。会議では、利用者の状況・事業所の取り組み等を報告し、参加者から意見・提案・情報等を受けている。地域包括や自治会長から、地域の高齢者の動向や地域のイベント等について情報提供を受け、サービスや運営に反映させている。参加していない家族にも、議事録を郵送して会議の内容を伝えている。	多くの参加者により運営推進会議を活発に一層有効に運営するために、家族代表者以外にも、全家族に参加を呼び掛けてみてはどうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症プロジェクトに関わり常に市町村担当者とも連携を図っています。	運営推進会議への市職員・地域包括支援センター職員の参加を通して、利用者や事業所の状況を伝え、意見や情報を受けて連携を図っている。認知症プロジェクトの協働や介護相談員の受け入れを通して市と協力関係を築いている。質問や課題がある場合は、電話や窓口で助言や情報を得ている。福祉的支援を必要とする利用者には、生活支援課の職員と協働して支援している。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての研修を定期的に行うなど職員への周知徹底を図り取り組んでいます。	身体拘束廃止についての方針を運営規定に明示し、契約時に家族に説明し理解を得ている。年間の研修計画の中に「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」を盛り込み、研修の中では不適切ケアについても学んでいる。研修は、全員が受講できるように複数回実施し、研修終了後はレポート提出により習熟度を確認している。報道された事例については、朝礼やミーティングで取り上げて検証している。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修機会を持ち常に注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、外部研修を通じて学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時など特に誤解がないよう説明行っています。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱以外にも直接ご意見がないか来庵時に声をかけるなどしています。	運営推進会議で、家族の意見や要望を把握する機会を設けている。家族の来訪時には職員から近況を報告し、また、毎月「ゆうとび庵通信」と共に個別の「近況報告」を送り、家族から意見や要望が出しやすいように工夫している。来訪が難しい家族には、電話で聞き取るようにしている。出された意見・要望は、申し送り時や申し送りノートで共有し迅速に対応したり、内容によってはホーム長を交えて検討して対応し、対応結果は必ず家族に報告している。フロアには意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	各ミーティングにおいて職員の意見を聞き反映させています。	ホーム長は日頃から職員に声かけを行い、話しやすい関係づくりに努めている。また、毎月、フロアミーティング・マネージャー会議・各委員会を開催し、職員が意見や提案を出し合う機会を設け、ホーム長も参加している。フロアミーティング・各委員会では具体的な話し合いが行われ、業務分担や行事の運営など、職員の意見や提案が運営やサービスに活かされている。法人としての相談窓口を設置し、職員が直接意見を表せる仕組みがある。馴染みの関係に配慮して、職員の異動は行われていない。	

12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の手当てなどやりがいを持てる環境整備に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる研修を内外で受講できるよう機会の確保に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所との合同イベントなどに参加し交流機会を設けています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成にあたって不安や困っていることのヒヤリングを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の要望などサービス提供にあたり確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、その時に必要なサービスの提供ができるよう対応しています。		

18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も同じ庵の一員として生活の場を提供できるようにしています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも同様に絆を大切にしながら関係性を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人など人や場所との交流が継続できるよう支援しています。	入居時に把握した馴染みの人や場所についての情報はフェイスシートに記録し、入居後の日々の生活の中で把握した情報については、申し送りノートに記録し職員間で共有している。知人・友人の来訪の際は、居室や共用空間で気持ちよく過ごせるように配慮している。日常的な散歩や買い物での外出時に、馴染みの場所や店舗に出かけ、馴染みの方と出会い言葉を交わす機会もある。手紙や年賀状を書いたり、また、お中元を贈る際の支援により、馴染みの関係の継続を支援している。	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様お互いが支え合う仲間として暮らせるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人様、ご家族様とも築いた関係性を大切にしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いを大切に意思決定ができるよう支援しています。	入居時に把握した利用者・家族の思いや意向はフェイスシートに記録し、入居後の生活の中で把握した思いや意向は、申し送りノートや毎月のカンファレンスで共有し、日々の支援やプランに反映している。把握が困難な利用者については、家族からの情報やアドバイスを参考にしたり、利用者の表情や反応等の観察に努め、毎月のカンファレンスなどで本人の立場に立って検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	これまでの生活歴など把握し庵での生活にスムーズに移行できるよう配慮しています。		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努め 穏やかに過ごせる ようしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様が自分らしく生活できるよう話し合い意見の反映ができるよう努めています。	定期的には3カ月に1回「施設サービス計画書」の見直しを実施している。計画に基づいたサービスの実施状況は、「ケア実施表」に記録している。日々の生活状況は、食事報告書・排泄チェック表・バイタルチェック表・往診表・服薬確認表や、施設日報に記録されている。モニタリングは、フロアの職員の意見を集約し、計画作成担当者が月に1回行っている。毎月実施されるフロア会議のケースカンファレンスで、モニタリング結果を基に話し合い、利用者一人ひとりについて、計画の見直しの必要性の有無も検討している。「施設サービス計画書」の見直しの際には、利用者・家族の意向を確認し、モニタリング結果と再アセスメントに基づいて、現状に即した見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアを記録し次のケアに活かせるようしています。		

28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な意見やアイデアを検討し柔軟に対応できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベントに参加するなど豊かに暮らしていけるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう十分に希望を確認しています。	契約時に意向を確認し、利用者・家族の希望に沿った受診支援を行っている。同建物内のクリニックから定期的な往診を受けることができ、また、利用者の状況や希望により、随時歯科・精神科の往診、訪問介護を利用することも可能である。眼科等他科の受診が必要な場合には、多くの場合は、近隣の医療機関に職員が同行して受診している。家族同行で受診する場合は、必要があれば、職員が文書を作成したり、往診医が紹介状を作成し、情報を提供している。バイタルチェック表に、往診・通院共に、受診についての詳細な内容が一元的に記録できる仕組みがある。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日常の気づきなど連携する看護師に情報を伝え必要な支援が受けられるようしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院側と早期退院に向けて情報交換に努め交流を図っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分説明を行いさらに都度説明を繰り返しおこなっています。	契約時に、「重度化した場合の対応にかかる指針」「看取りに関する指針」に沿って、重度化・終末期に向けた事業所の方針については説明を行い、「同意書」を用いて利用者・家族の同意を得ている。利用者の身体状況や病状の段階に応じて、その都度家族・医師・看護師・職員を交えて話し合いを行っている。話し合いの経緯を記録する書式を、医師と検討中である。話し合った内容から看取りに向けた「施設サービス計画書」を作成し、家族の意向に沿った支援を行うように取り組んでいる。看取りについて職員研修を行い、重度化・看取りに対しての方針や支援方法について職員の周知を図っている。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作や救急救命の講習などを学び火災訓練なども定期的に行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した訓練を行ったり地域の防災訓練にも参加しています。	毎年、年に2回（7月・1月）、昼夜想定で利用者も参加して、総合訓練を行っている。地域の方も参加し、時には消防署の立ち合いもある。年間研修計画に、「非常災害対策研修」を盛り込み、役割分担や避難経路の確認等を行っている。地域で開催される防災訓練にも参加し、地域との協力体制を整えている。災害時に必要な水や食料、懐中電灯・簡易トイレ等の備品もフロアごとに備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重を行い言葉遣いなど注意しています。	基本方針に、「入居者様の自尊心と人生を尊重し・・・」と謳い、一人ひとりの尊重を職員間で共有している。年間研修計画内の「プライバシー保護研修」や認知症ケア研修の中で、権利擁護や個人情報保護等について学ぶ機会を設けている。気になる言葉かけや対応があれば、個別に注意を促したり、ミーティングで話し合っている。個人記録類は書庫に保管し、個人情報の適正な管理に努めている。	
----	----	---	------------------------------	---	--

37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いを自己決定できるように働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく利用者様とのコミュニケーションを大事にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しめるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけでなく作る事も含めて出来ることに力を発揮してもらっています。	食事は、献立と食材の搬入を受け、各フロアで手作りの調理が行われている。業者による献立は、季節感や行事が採り入れられている。食事報告書や食事委員会を活用し、利用者の摂食状況や好みを業者に伝え、献立に反映させている。また、利用者の咀嚼や嚥下の状態に合わせて、刻みやミキサー食等食事形態に配慮している。利用者の希望の献立を聞き、食事レクやおやつレクを行い、利用者も力量に合わせ参加している。個別や少人数で外食や喫茶の機会を設けたり、誕生日にはケーキや好みの献立でお祝いするなど、変化を楽しむ取り組みも行っている。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量などチェックを行い健康状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを支援し必要に応じて歯科医とも連携しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレで自立した排泄が少しでもできるように配慮しています。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄状況やパターンを把握し、できる限りトイレでの排泄を支援している。毎月のモニタリングで誘導のタイミングや適切な排泄用品の使用を検討し、個別の支援方法を検討している。排泄介助時は、ドアの開閉への気配りや、声かけの仕方に配慮する等、プライバシーを損ねない対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を検討し便秘解消のためにできることを取り組んでいます。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の状況に応じて入浴を柔軟に行っています。	週3回、午後の入浴を基本としているが、利用者の希望や状況・行事等に合わせて臨機応変に対応している。希望があれば毎日入浴することもできる。利用者のADLに応じて、2人介助により安全な入浴介助を行っている。ゆず湯やしょうぶ湯などを季節感のある入浴が楽しめるようにも配慮している。異性介助をいやがる利用者には同性介助で、入浴を好まない利用者については無理強いすることなくタイミングや声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせてお昼寝などでもできるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用の目的や副作用を理解して服薬の支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の生活歴に合った楽しみが持てるよう支援しています。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望に応じて外出できる支援を行っています。	日常的には事業所周辺の散歩・公園・スーパーなどに外出している。天候により外出しにくい時期も、短時間の外出により外気浴と気分転換を図るなど、年間を通して戸外で過ごす時間が多く持てるように取り組んでいる。夏祭り・運動会・秋祭り・展覧会・ロビーコンサート等、季節ごとの地域行事にも参加している。また、初詣・花見・チューリップフェスタ・バラ公園・紅葉散策等、少し遠出の外出も行事として計画的に行っている。車いす使用の利用者も機会均等に外出できるように、外出先や移動手段に配慮して支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人様がお金を使えるよう買物など支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙など自由にできるよう支援しています。		

52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが利用する共用空間が居心地良い空間として利用いただけるよう工夫しています。	基本理念の中の「私たちは整理整頓に心掛け、家庭的で季節感のある雰囲気づくりを心がけて参ります。」に沿った、共用空間づくりに取り組んでいる。ゆったりと明るい共用空間は、整理整頓が行き届き清潔感がある。リビングや廊下にテーブル席やソファを配置し、利用者が思い思いの場所でくつろげるように配慮されている。利用者・職員・ボランティアの方が一緒に作った季節の飾りや、行事などの写真を掲示し、季節感や家庭的な雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで利用したり一人で利用できるなど居場所作りを行っています。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の家具や親しみのある物を利用いただき居心地の良い空間作りに配慮しています。	居室にもゆったりとした広さがあり、備え付けのベッド・机・クロゼット以外にも、使い慣れた馴染みの家具や道具、好みの飾りや思い出の写真などが持ち込まれ、その人らしさが感じられる居室空間になっている。居室担当の職員が、環境整備や衣替えを行い、気持ちよく過ごせるように支援している。利用者の心身の状況に応じて、持ち込みの品の調整や配置を検討し、利用者が安全で落ち着いて過ごせるように支援している。部屋の入り口周辺に本人の写真を貼り部屋間違いを防いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力を活かし且つ安全に利用できる空間作りを行っています。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない